

# 『夢と感動のテーマシティ にらさき』

## 理 念

- 1 豊かな自然と歴史を愛し、美しい心と強い絆のまちづくり
- 2 夢と感動を共有し、多様な価値観に対応できるまちづくり
- 3 市民が協働し、新しい創造力を備えた人が集まる賑わいのあるまちづくり



堀貞一郎さん

「韮崎市には歴史や史跡はありますが、人を集める楽しいものがたりがないようですね」

堀さん

これから「魅力的なものがたり」を創り「市民協働による新しい創造力を備えた、人が集まる賑わいのあるまちづくり」を進めていきたいと考えています。

横内市長

「テーマシティ」とは  
どんな経緯で生まれたのか？

「テーマシティ」とは、一体誰が、どんな経緯で考えたのか。

ことのきつかけは、新しい葦崎市のまちづくりの一つとして、穂坂地区にある15万5千坪の市有地の土地活用について、市長が政策懇談会のメンバーの一人に相談したところ、その方が所属する山梨大学地域共同開発研究センターで検討していた。いただいた結果、大学でも難易度の高い課題であるとの回答でした。それからしばらくして、そのメンバーの方が堀貞一郎さんと都内でお会いした折、その15万5千坪の話をする、堀さんが気さくに、「行って現地を見ようか」と言われたのが発端です。

堀貞一郎さんは現在、国際観光学会の顧問をなさっていて、日本全国の活性化を考えておられます。かつては日本を代表する広告代理店の電通に勤務され、1971年の大阪万国博覧

会において、電力館と住友館の総合プロデューサーとして企画立案を推進された後、千葉県浦安市の「東京ディズニールランド建設」に多大な貢献をされ、東京ディズニールランド生みの親とも呼ばれている方です。

そんな堀さんが葦崎市に関心を持たれた背景には、この地が

「小林一三翁生誕の地」

であるということがありました。

堀さんは、何よりもマーケティング・リサーチ（市場調査）を重視されます。リサーチすれば必ず何かが見えてくるという信念で、これまで大きな事業をいくつも手がけてこられました。ディズニールランドの開発計画では世界中の遊



横内市長

園地を訪問され、数々の発見と見聞をされました。当時、日本の遊園地のほとんどは小林一三翁の発案した「二三方式」と言われる、路線を軸とした開発が行われていました。堀さんは、独自のアイデアで東京ディズニールランドの開発を進め成功させました。

この「テーマシティ」も堀さんのアイデアです。多忙な堀さんの最初の来葦は、平成19年6月21日に実現しました。

事前に、葦崎市の観光パ

ンフレットや地図などを送りし、当日はまず、横内市長が市の地域資源や歴史・地形・気候などについて説明し、それから市民会館の屋上で市の東西南方面、最後に穂坂の現地を視察されました。

堀さんは感想として、

「葦崎市には歴史や史跡はありますが、人を集める楽しいものがたりがないように思えますね」

とコメントされました。



願成寺の五輪塔

さらに堀さんは、10月1日から一週間にわたって蕪崎市を再訪され、市内全体をくまなくリサーチされました。その折には、「もう講演は断っています」と言われる堀さんに是非にとお願いし、蕪崎市の子供たちのために『夢と感動のお話』をしていただきました。小林一三翁の話、デンマークチボリ公園の話、東京ディズニーランドの話、そして、『夢を実現させるための、一日の時間の使い方』等、堀さんの魅力と感動あふれる話に、参加した子供たちも、臆することなく活発に質問

し、そのお話に何かを感じ取ったようでした。すべて堀さんのご好意でした。それから、「蕪崎市には、人を集める楽しいものがたりがないね」という堀さんの言葉をヒントに、感動するストーリーを研究する市民の会が立ち上がり、まちづくりの一環として、市民協働参画による新しい活性化案を研究開発し、何とか蕪崎市に

### 「魅力的なものがたり」

を創出しようという考えがまとまりました。

その一つは、平成20年は小林一三翁生誕135周年ということから、生誕140周年まで段階的に生誕地として地域の輝きを創出しようというものであり、もう一つが、蕪崎市にまつわる歴史や文化・伝統・産業を、新しいストーリーの創作童話を通じて、蕪崎市に来て・見て・体験して・感動してもらい、又、産業の振興に役立てるとともに市民に新たな活力を生み出すとういうものです。

蕪崎市には、市全体の豊かな自然・歴史・文化や地域の絆をもとに、「多様な価値観に対応するテーマの構成」が必要であり、夢と感動を共有し、

### 「市民協働による新しい想像力を備えた人が集まる賑わいのあるまちづくり」

を目指そうというものです。

そのための総称を、「夢と感動のテーマシティにらさき」としました。

堀さんの、これまでの蕪崎市に対するご好意に、心から感謝いたします。

### 「夢と感動のテーマシティにらさき」の背景と理念

蕪崎市では、次の第6次長期総合計画を明年度に向けて策定中です。

少子高齢化が進む中、蕪崎市が、夢と希望を持ち活力あるまちづくりを推進していくためには、「テーマ



シティにらさき」の理念と哲学が必要です。その理念と哲学に基づいた行動を確実に次世代に継承していくことが重要であり、今の私たちに、その使命があると考えます。

そのために市では、官民一体となり、持続可能な将来にわたって成長しつづける『夢と感動のテーマシティにらさき』の理念を策定し、新たなまちづくりを推進していこうと考えています。

# 生誕135周年記念 事業を始めています

「自分の持つ長所を確信することである。確固たる思想をあくまでも維持することである。訓練式タイプ型のみで、何人も持つ自分自身の長所を顧みて、それに磨きをかけて人の多からんことを切に希望する。」

「人生に勝利するには、なにより勝つ心がけが必要である。人が8時間働かなら、15時間を働く気概、人がうまいものを食べているときには、自分はずまいものを食べないだけの度胸がなければいけない。」



小林一三翁が幼少の頃過ごした家

今年には小林一三翁生誕135周年、その記念事業として市では、市内の小中学校・保育園などで、すみれの植栽を行っています。立志式においても卒業生が記念植栽を行いました。植栽にあたり市教育委員会が卒業生に向けて小林一三翁の言葉を贈りましたので紹介します。



「世の中で、100歩先の見える者は変人扱いをされる。50歩先の見える者の多くは犠牲者になる。ただ1歩先の見える者のみが成功者となるのだ。」

立志式を迎えられた皆さん、郷土が輩出した偉大な先人の言葉を参考に、大きく羽ばたいてください。

今年度はこの他にも記念事業を行う予定です。随時お知らせしていきます。

## 小林一三翁生誕140周年にむけて 関係資料・ご提案を募集！！

小林一三翁が開発された鉄道事業と宅地開発事業、宝塚温泉や宝塚遊園地、百貨店の事業は21世紀の現代にも通用する「斬新なビジネスモデル」であり、わが市の偉大な先人に学ぶ新しいまちづくりの活動を全市をあげて展開したいと考えております。本年度より市民協働参画のもと「テーマシティにらさき」を具体的に実現するための数々の事業や活動を実施していく予定です。5年後の小林一三翁生誕140周年に向けて計画的に実施してまいりますので、多くの市民の皆様方のご参画や資料のご提供また、ご提案などをぜひお寄せください。お待ちしております。

■お問い合わせ  
政策秘書課秘書担当（内線323・324）



晩年の小林一三翁